

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

脳卒中片麻痺患者の下肢痙縮に対する2回のA型ボツリヌス毒素製剤投与による最大足底接地面積の変化

1. 研究の対象および研究対象期間

2012年3月から2014年3月までにリハビリテーション科外来に通院していた患者の内、ボツリヌス治療を2回行いシート式下肢加重検査を行った方

2. 研究目的・方法

痙縮は「腱反射亢進を伴う速度依存性を特徴とする伸張反射の亢進」と定義される上位運動ニューロン障害の一徴候です。痙縮の治療として、A型ボツリヌス毒素製剤(BoNT-A)によるボツリヌス治療は多く行われており、脳卒中治療ガイドライン2015では「上下肢の痙縮に対しボツリヌス療法が強く勧められる(グレードA)」と推奨されています。先行研究ではBoNT-Aによる治療を複数回行う有用性は示されているものの、足圧がどのように変化をしたかは明らかになっていません。今回、下肢の痙縮を呈する筋に対して2回BoNT-A投与を行った患者の最大足底面積の推移を比較することにより反復投与による治療効果について検討します。

研究期間

2019年10月1日～2021年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、ボツリヌス治療実施日、投与前後のModified Asworth Scale、シート式下肢荷重検査(1歩行周期での最大足底接地面積)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも

患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院(医学部リハビリテーション医学講座)

氏名：川手 信行

住所：213-0004 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1 電話番号：045-974-2221

研究責任者：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院(医学部リハビリテーション医学講座)

研究責任者：川手 信行